令和５年度 社会文教常任委員会　所管事務調査報告書

令和５年 11 月 20 日

富士見町議会
　議長　牛山 基樹　　殿

社会文教常任委員会
委員長　　名取久仁春

社会文教常任委員会は、令和５年 10 月 24 日、静岡県静岡市の「子育て支援センター」と牧之原市図書交流館「いこっと」を訪問し、子育て支援の状況と取組事業、図書館の交流拠点機能について視察しました。また、25 日には、静岡県菊川市の「市民協働センター」と、静岡市の「登呂博物館」を訪問し、若者の居場所づくり、登呂博物館建設の経緯と出土品の展示方法等への工夫について視察を実施しました。下記の通り報告します。

記

１．目　　的　・子育て支援センターでの子育て支援状況
　　・図書交流館の交流拠点機能
　　・菊川市市民協働センターでの居場所づくり
　　・登呂博物館建設の経緯と出土品の展示方法の工夫
２．視察場所　静岡県静岡市・牧之原市・菊川市
３．期　　間　令和５年 10 月 24 日（火）～25 日（水）　２日間
４．派遣議員　名取 久仁春、矢島　尚、織田 昭雄、山口　肇、西　明子、
　　牛山 基樹
５・視察報告
　委員４名がそれぞれの視察について報告書を作成しました。報告書は、報告書①～④として添付しております。
　①　静岡県静岡市「子育て支援センター」　矢島　尚委員
　②　静岡県牧之原市図書交流館「いこっと」　西　明子委員
　③　静岡県菊川市「市民協働センター」　織田　昭雄委員
　④　静岡県静岡市「登呂博物館」　山口　肇委員

①　令和５年度　社会文教常任委員会　所管事務調査報告書

令和５年１１月 20 日
社会文教常任委員会副委員長　矢島 尚

◆日時　令和５年１０月２４日（火）９：４５～１１：１５
◆視察項目　子育て支援センターにおける子育て支援の状況と取組事業（静岡市）
◆参加者　社会文教常任委員５名、議長１名、事務局１名（計７名）

１、概要

富士見町役場を午前６時４５分に出発、諏訪南 IC より中央道、双葉 JCT を中部横断自動車道・第２東名を経由し午前９時３０分に静岡市役所到着。静岡市議会事務局調査法制課の佐藤征教課長、主査の望月洋見氏、子ども未来局子ども未来課子育て支援推進係の佐野千夏氏に出迎えられ９０年と歴史ある議会棟で研修を開始。内容は佐野氏から説明を受けました。終了後は歴史ある議場の見学もさせて頂きました。その後、歩いて３分の静岡市中央子育て支援センターへ子ども達のいる実際の現場を見学致しました。

２、調査内容

事前に質問事項を４項目お願いしてありましたので、それらに合わせ取り組みについてお話しを頂きました。

【質問事項】
①一時保育室の利用状況について、利用人数、おおまかな利用時間帯を教えてください。また一時保育室の利用者層は、どのような傾向にありますか。
②一時保育について、保育士の確保状況と予約がない場合の対応はどのようにされていますか。
③子育て交流サロンの利用状況について、利用人数を教えてください。また子育て交流サロンの利用内容は、どのような内容が人気ですか。
④子ども未来サポーターは、どのような資格を取得している方を採用されていますか。また、現在の採用人数は何人ですか。

３、調査内容からの所感

事前の質問事項４項目をまとめますと、財政豊かな自治体ならではの取り組みがなされていることが感じられました。一時預かりの支援センターは２ヶ所、静岡中央子育て支援センター（一時保育）、清水中央子育て支援センター（一時保育・月保育）。年間開所日数は、年末年始以外は利用出来る。利用可能時間は、朝７時～夜１１時まで。利用状況は８時～１８時の時間帯が多い、加えて３歳以下の小さい子どもの利用多い。ほぼ予約でいっぱいになる。保護者の８割は仕事で預けている。両施設とも常勤は４名～５名非常勤１０名を配置。静岡市内には全部で２１ヶ所の子育て支援センターがあり１２ヶ所は委託で社会福祉協議会が運営。４ヶ所は指定管理。静岡中央と清水中央を含む５ヶ所は静岡市が直営で運営している。ちなみに静岡中央と清水中央２ヶ所の予算額は年間１億３千万円。それぞれの支援センターのスタッフは、国の実施要綱の資格保有者を採用しているとのことでした。

以上

②　令和5年度　社会文教常任委員会　所管事務調査報告書

令和5年11月20日
社会文教常任委員会　西　明子

日　　時：令和5年10 月 24 日　　14:00～15:30
視察場所：牧之原市　図書交流館「いこっと」

教育委員会　社会教育課の八木いずみ図書館長と司書の水野秀信さんから説明を受け、そのあと館内を案内していただいた。

1.　ミルキースクウェア概要
　所在地：牧之原市波津 3 丁目 11 番地
　面積：2378 ㎡　内容：図書交流館及び民間複合施設
　テナント：ボルダリング、カフェ、人工芝生広場、シェアキッチン、屋外バーベキュー、レンタルバイク、観光情報案内、マルシェ、イベントスペース、市子育て支援施設等
2.　図書交流館の概要
　工期：2020 年 7 月～2021 年 1 月　(2021 年 4 月にオープン)
　事業費：工期日 176,000 千円(地方創生拠点整備交付金事業)
　面積：815 ㎡　※富士見町図書館 1,217 ㎡の約 3 分の 2
　収蔵能力：5 万冊
　閲覧席数　80 席
　建物は民間が所有し、図書館部分を市が 15 年間賃貸(賃貸料　66 万/月)

3.　オープンまでの経緯
　2005 年に相良町と榛原町の合併により牧之原市となる。合併以前より相良図書館(89 ㎡)、榛原図書館(165 ㎡)の 2 館。合併直前に相良町では図書館建設の要望書、合併後平成 21 年に市民から図書館のあり方を考える提言書が出された。相良図書館、榛原図書館ともに「公共施設マネジメント基本計画」では既存の建物を活かす方向。両図書館の方向性を定めるために、平成 30 年に図書館協議会設置。令和元年に「図書館基本計画」を策定。既存の建物を活かしながら交流機能も持たせるという方向性。
　2019 年のホームセンターの撤退を機に民間のスピードに合わせ、撤退から 18 ヶ月でオープン。

4.　視察内容

建物全体の名前が「ミルキースクウェア」右側の部分が「図書交流館」。ホームセンターのような外観はそのまま活かしている

入って右側にカウンター。職員の事務スペースはこのように確保されている。漆喰壁には、牧之原市の茶葉が練り込まれている

本棚が低めで、圧迫感がなく、奥まで見渡すことができ、ゆったりと本に親しめる空間になっている。雑誌のコーナーでは「雑誌スポンサー制度」で、スポンサー企業名が雑誌に掲示されている。120 タイトルの雑誌のうち、約半分はスポンサーがついている

「キッズワンダーコーナー」には子どもしか入れない秘密基地のような本棚のスペースがある。低めの学習机と椅子

2,023 年 5 月から市の子育て支援センターと児童館が移転してきた。こちらの施設の利用者はお父さんが多いのも特徴だそう。地域の方の暮らしに役立つ場所として機能している。

図書交流館側から民間側を見ると、マルシェ(チャレンジショップ)、ボルダリング、カフェ、卓球スペース、トランポリン(無料)、バランススクーターなどが見える。共有のスペースを、友だちと待ち合わせに使う小学生の姿も見られた

5. 学びと感想

- **図書交流館としての居場所の機能**

「図書館」ではなく「図書交流館」として交流の場として整備した点、この場所を入り口にこれまで図書に触れてこなかった市内の人たちが「図書館文化」に触れられるような空間にしていきたいという、水野さんの言葉が印象的だった。閲覧席が 8 席ほどだった相良図書館の 10 倍の席を確保しており、「サードプレイス(第 3 の居場所)」としての機能を果たしていることも実感した。ふた付きの飲み物だったら民間スペースからの持ち込み可、食べるときは民間コーナー側を利用数するようになっている。

- **公と民、静かな場所と静かな場所、境目の工夫**

図書館スペースと民間のスペースには仕切りがない。それは公･民のスペースが空間としてはつながっており、一体として見ていくという設計者の考えのもとであるそうだが、図書の盗難等の心配もあったため、体育館のネットのようなカーテン状の網で閉館後は仕切っている。

ミルキースクウェアに入ると BGM が聞こえてくる。図書館であれば本来は音がない環境であるが、民間スペースから音が聞こえてくる。音の苦情はあまりなく、むしろ、小さい子連れのお子さんが泣いたり、声を出したりできるので気兼ねなく利用できるという声も上がっているという。図書交流館内では環境音楽を流し、奥に行くほど音楽が聞こえなくなる配慮がされている。奥の学習スペースでは音楽がまったく聞こえないなど、利用者のニーズに合わせて音の環境も工夫されている。

- **利用者数と牧之原市の図書館の今後**

相良図書館では利用者が 1 日 50 人。図書交流館では、平日 200 人、土日は 500 人。本好きな人だけでなく、小さい子からお年寄りまで誰でも来られるようになった。1 割ほどは市外からの来館者。買い物ついでなど交流人口増加の効果もあるようだ。来年春開館予定の榛原図書館は牧之原市の文化センター、生涯学習の拠点、市役所と隣接することで行政との連携など、外とのつながりを図書館の貸し出し機能だけでなくさまざまな機能を備えた場所とし暮らしに役立つ場所としてリノベーションされる予定だそうだ。

- **さまざまな制約を活かすことが牧之原市の図書館の強みになっている**

合併前後から市民の要望や提言書の経緯、「図書館基本計画」策定の際に寄せられた 177 件のパブリックコメントなど、市民の関心とその声に応えようとする図書館行政のあり方が印象的だった。公民連携のスピード感、さまざまな制約を強みに変えるべくタイミングを見計らった準備など、住民、民間業者、行政の姿勢からの学びがあった。暮らしに寄り添った公共施設は富士見町で今後どうあったら良いか、ヒントをいただくことができた。

③　令和5年度　社会文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和５年11月20日

社会文教常任委員会 織田 昭雄

日　　時：令和５年１０月２５日（水）AM10:00～12：00
視察場所：静岡県菊川市　市民協働センター「きくせん」

今回おじゃました菊川市は静岡県の東遠地域に位置し、深蒸し茶の里として知られるお茶の産地であります。茶業の他、茶摘み機、自動車関連部品、精密工作機械などを生産する企業が立地しており自動車メーカーのスズキがある工業都市であります。また、人口が４７，５８１人の内８，１％に当たる３，８６３人のブラジル、フィリピン、ベトナム、インドネシアなどの外国人が暮らしており地元企業の大切な労働力となっておりますが地元市民との結びつきが希薄であることから市は内閣府男女共同参画キャッチフレーズコンテストに応募して最優秀作品賞を受賞した「無くそう思い込み、守ろう個性みんなで作る、みんなの未来」に込められた市民の意識改革を試みたこうした取り組みに注目の菊川市であります。

国では子ども政策の新展開として、こども家庭庁創設により子供の意見反映が義務化され子ども若者を社会形成の主体として位置づけ新しく成立した子ども基本法で子どもの意見反映に関する考え方が方向転換した国の政策のなかで、専門雑誌に菊川市が部署を超えて全市的な「わかもののまちモデル自治体」として紹介されたことから視察先を決定いたしました。菊川市市民協働センター「さくせん」が活動の中心の場となり市政に関わり運営を指定管理者、NPO法人アートコラールきくかわ理事長であり市民協働センター長でもある笠原活世様より高校生大学生の町づくり参加の経緯や市政懇談会ボランティアへの働きかけの市民協働センターの役割などの質疑に熱心にお答えいただきました。

市民協働センターが中心となり「こどもわかもの参画協議会が結成されメンバーとして若者当事者である高校生、大学生が６名、行政から菊川市地域支援課、企画政策課、こども未来部連携調整室、学校教育課、学校からは静岡県立小笠高等学校、常葉大学付属菊川高等学校、NPOからわくわく学習会、虹の架け橋小笠教室、菊川児童館、企業からはグローカルデザインスクール（株）保護者からは小中高保護者と多彩なメンバーが参加しその統括運営を菊川市市民協働センターが担っています。まさに市民協働センターのあるべき姿だと感銘を受けました。こうして組織運営されている中で一番興味を感じたのはこども若者町

づくり参画協議会の若者まちづくり参画の仕組みづくりとして、段階的な若者の参画機会の創出を学校と連携したハードルの低い参画の場から中学生、高校生を対象にした中高生NPO体験セミナー、ジュニアアート教室、みんなのアソビ×小さな収穫祭、高校生対象では地域の課題解決プロジェクト。高校生町づくりスクール。若者町づくり市政への参画として高校生大学生向けは菊川町づくり部。市政懇談会への参加と年代に応じて子ども達に町づくりに参画してもらい将来成人になっても一時家を離れ大学に進学しても卒業したら故郷に戻り地元の企業や行政などに参画してもらえるような仕組み作りがされているなと感じてきました。

菊川町づくり部は活動報告会や市への政策提言をしている活動は簡単にできる事ではなく恵まれた環境と指定管理者のNPO法人アートコラールきくかわの実力、菊川市市民のすばらしさを感じると共に住民協働の町づくりの本質が見えた気がします。これからの議員活動に視察で学んだ幾つものことを糧に研鑽してまいります。

④　令和5年度　社会文教常任委員会　所管事務調査報告書

令和5年11月20日
社会文教常任委員会　山口　肇

視察場所：静岡市登呂博物館

日　時　：令和 5年 10月 25日(水)　午後2時15分～午後3時30分

登呂遺跡と一体化した博物館　　遺跡公園（住居域と水田域）と博物館の一体化を図る

＜正面玄関＞

＜遺跡公園から見た博物館＞
遺跡公園全体が見られるように２階ガラス張り

＜１階＞

参加・体験型展示を目的としたスペースで、屋上と共に無料で出入り自由となっている。
正面玄関から遺跡公園口を通り、遺跡公園に通り抜けできる。
〇図書コーナー・情報映像コーナーやミュージアムショップ。
〇登呂交流ホールは、研修やイベントに活用している。

＜登呂交流ホール＞

登呂博物館　学芸員の方から説明を受ける。
写真奥
　図書コーナー
　２階　常設展示室への階段

〇弥生体験展示室

展示してある木具や土器等は、すべてレプリカで自由に触れることができる。

住居址、高床倉庫

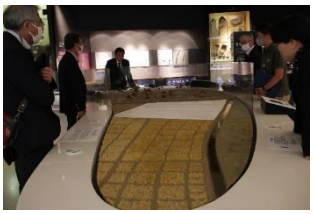
体験指導員とボランティアスタッフが体験方法を丁寧に指導。
貫頭衣を着て、展示物の説明や疑問に答え、
体験を援助する。

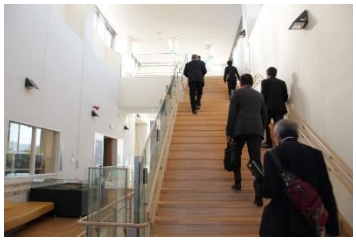
小学生が、木彫り体験で作り上げた丸木舟など

＜２階＞

階段をのぼり、２階エントランスに出ると、
全面ガラスで、遺跡公園全体が見渡せる。

〇常設展示室
軍需工場建設の際に発見された。
学会の注目度が高く、発掘調査が行われた。
日本で初めて弥生時代の水田跡が確認された。
戦後、本格的調査がされ、多数の木製品が発見され、重要文化財に認定。





＜屋上にあがる階段＞
階段右に見えるのは、企画展示室

〇特別・企画展示室　遺物貯蔵庫の中が、見られるようにしている。

＜屋上展望エリア＞
遺跡公園全体が見渡せる。　富士山も遠くに見える。

＜遺跡公園＞

〇復元水田
農業の得意なボランティアが、稲作指導をしている。
稲作体験を希望する保育園や小学校を募集して、
稲作体験をすることで、復元水田を広げている。

〇メモリアル広場
住居跡のほか高床式倉庫、祭殿などの建物
復元住居だけではなく、住居などの遺構（建物跡）も

〇鉄骨造 GRC パネル貼り構造
住居内での煮炊き等の体験学習ができるように建造物として建設した住居。

＜イベント企画の紹介＞

＜視察内容＞

1　展示方法のねらいやこだわり、工夫等

登呂遺跡博物館のコンセプト

・人を感じられる博物館　→　体験指導員（貫頭衣を着て、ガイドや説明）

・遺跡の見える博物館　→　来館者の動線を考えた展示室等の配置と設計

・遺跡を語る博物館　→　遺構も含め遺物という資料から遺跡を理解する

2　体験を重視した博物館運営の工夫点

体験により、より深い学びができる。そのための人の配置（体験指導員やボランティア）

3　今後の施設建設計画は？　資金準備の進め方

建設計画はないが、視聴覚機材等のリニューアルが必要。

補助金活用も含め、資金準備を考えている。

4　ボランティアについて　募集や工夫、苦労されていること

今年は、４９名。ガイドや体験学習の補助等で活躍。

退職された方は、得意分野（電気工事、ＤＩＹ、農業等）で活動していただく。

学生ボランティアには、新しい視点を提案していただき、参考にしている。

募集要項（資料）配布し、毎年募集。

特典：企画公演に招待。希望で視察研修（博物館見学）に参加可能。図録や記念品のプレゼント。

5　ボランティアの採用基準や研修は、どのように。

意欲のある方で、月２回程度活動に参加可能な方。（週割で、参加予定表の作成）

月１階程度のボランティア会議。　新規ボランティア研修。

6　博物館のホームページの運営方法

プロポーザルで、業者委託（メンテナンス、情報管理）　職員の情報発信のサポートも

＜井戸尻博物館建設に向けて＞

〇早急に建設に関わる検討委員会を立ち上げ、博物館コンセプトを明確にする必要がある。

登呂遺跡博物館は、設立までに検討委員会で、十分な話し合いを行ったとのこと。

その後も市民を含めた博物館協議会を置き、管理運営についての協議をしている。

〇職員配置　規模と機能により、職員配置を行う必要がある。

登呂遺跡博物館は、正規職員７名（学芸員３名）　会計年度職員１２名（体験学習指導員）

〇ボランティアの存在が重要。井戸尻応援団の活動を広め、参加者を増やす必要がある。

直接的に考古館運営や活動に関わるボランティアと間接的に考古館や遺跡公園の維持管理に関わるボランティアを分けて募集することも必要か。　町の文化風土「おらあとうの遺跡」を大事にしたい。